

九州大学病院

研修医師 幸田 彩未 2013年7月

はじめまして。九州大学病院プログラム初期研修医2年次の幸田彩未と申します。

鹿児島に滞在するのは今回が初めてでした。未知の土地で1ヶ月生活することに最初は不安もありましたが、皆様とても優しく接していただき充実した研修生活を過ごすことができました。

また、福岡とは違う体験ができ、今まで気がつかなかった医療の一面を感じた気がします。簡易ですが研修の内容を一部ご報告させていただきます。

院内研修では外科・皮膚科を中心に研修させていただきました。外科では、回診や手術につかせていただきました。入院されている方は75歳以上の後期高齢者の方が多く、80歳代でも積極的に全身麻酔下で手術をされており驚きました。部長の花田先生をはじめ、先生方はいつも笑顔で優しく、親身になって診療されていました。大学病院よりも患者さんやご家族との距離が近いように感じます。

皮膚科では外来、処置、外来手術に参加させていただきました。増口先生は一人で外来診察、外来手術とたくさんの業務をされていましたが、常に優しく丁寧に指導いただき、非常に勉強になりました。院内ではどの診療科でもメディカルの方々、スタッフ、他科の先生との距離が近く、良好な人間関係を気づかれているように感じました。

院外研修としては野田診療所、大川内診療所、上場診療所、高尾野診療所、特別養護老人ホーム鶴寿会たかおの、出水保健センター等で研修をさせていただきました。今まで紹介状を持って来院される方、急性期医療が中心だったので、紹介前の診療所や紹介後の慢性期医療に接するのは初めてでした。

診療所、往診では患者さんとの会話や触れ合いが多く、患者さんの家族や社会的背景を考慮した診療をされていました。急性期・慢性期で求められている医療の違いや病院間の縦の連携の大切さを実感しました。

また、一次救急や院内オンコールにも参加させていただきましたが、阿久根市や水俣市の病院に搬送が必要な症例も経験し、病院間の横の連携の必要性も感じました。

また、週末には市民大学の講義も参加させていただきました。他の地域で講座に参加したこともあります。今回は他と比べても参加している方が多かったように思います。後日、市民大学の講座を聞いたから内視鏡検査をしたいという方が受診されているのを目にし、地域の方の医療への関心の高さ、病院から地域に呼びかける意義を感じました。

短期間でしたが、高齢化や救急医療の問題など、福岡では気が付かなかった医療の側面を肌で感じることができました。他の医療機関と連携し、複数の医療機関で出水市の医療を支える取り組みなど、非常に勉強になりました。

また日常では、豊かな自然に驚き、カエルの鳴き声や紫陽花、水田など、忘れかけていた四季を感じ、美味しい食事と良質な温泉に癒される充実した日々を過ごすことができました。

ご指導いただいた先生方、病院関係者の方々に心から感謝しています。1ヶ月間本当にありがとうございました。